福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110～120周年
標　語
共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日　第3種郵便物認可（毎月一日発行）
2025年6月1日（日）第849号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人 / 梁栄友・編集人 / 鄭守煥
印刷所　青丘文化社

オリニ主日
説　教

子供を受け入れられたイエス様

＜マルコによる福音書10：13～16＞

許　光　渉　牧師（岡崎教会）

本箇所は、マルコによる福音書10章に記されている物語の流れの中で、重要な意味を持つと考えられます。それは、本箇所が「パリサイ人たちの不純な質問に対するイエス様の教え」（2～12節）と、「永遠の命と富」の間で思い悩み立ち去った人についての話（17～22節）の間に位置するからです。さらに広げて見ると、本箇所は9章から10章にかけて記されている弟子たちの「高位をめぐる争い」（9：33～37、10：35～45）の間にあります。まさに、このような文脈の中に、子供たちを受け入れられるイエス様の姿が描かれており、その中でイエス様は仕えることや苦難について教え、世の価値観とは異なる神の国の原理を示されます。そして続く11章では、イエス様はエルサレムに入られ、神殿をきよめ、神の国の権威と到来を公に宣言されます。

このような流れの中で、本箇所は神の国がどのような人々の国なのか、そしてその国に入るためにどのような態度が必要なのかを示しています。

「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。」（13節）一群の人々が、自分の子どもたちに触れていただきたいと願って連れて来ました。当時のユダヤ社会では、子供たちは人格的に尊重されるよりも、大人の所有物や未熟な存在と見なされていました。しかし、親たちは自分の子どもたちがイエス様の御手に触れて祝福されることを願いました。イエス様の触れてくださること、その按手に、いやしと祝福の力があると信じていたからです。ところが、弟子たちはこのような人々の行動を快く思わず、叱りつけました。

おそらく弟子たちは、当時の社会通念に従って子供たちを重要でないと考えていたか、あるいは子供たちがイエス様の働きの妨げになると考えたのかもしれません。ひょっとしたら、イエス様は子供たちよりも大人たち、特に宗教的あるいは社会的に力があり影響力のある人々との交流に集中し、より大きな事柄に取り組むべきだと考えたのかもしれません。彼らはイエス様がエルサレムでの死を告げられたにもかかわらず、依然として互いに「高位」をめぐって争い（マルコ10：35～45）、世俗的な成功を夢見ていたからです。

これは、神の国を世の権力と力の論理で理解しようとする彼らの態度を示しています。しかし、イエス様はそのような弟子たちを叱責し、子供たちがご自分のもとに来るのを許し、妨げてはならないと言われました（14節）。特にマルコによる福音書は、イエス様が弟子たちを見て「憤られた」（14節）と記しています。原文で「憤られた」という言葉は、「激怒する」、「ひどく憤慨する」という強い感情を表しています。

これは、神殿で商売人たちを追い出された主の姿（マルコ11：15～18）を連想させます。たとえ商売人たちを追い出された際に、「憤られた」という言葉は記されていなくても、主の行動は明らかに憤りを語っています。

主はなぜ、そこまで憤られたのでしょうか？ それは、弟子たちの行動が「神の国の本質」に対する深刻な歪みから生じたものであったからです。イエス様は弟子たちを叱責し、「神の国は、このような者たちのものである」と言われました。ここで言う「このような者たち」とは、まさに子供と同じ立場にいる者たちを指すでしょう。彼らは世の基準で見れば、自分を誇るものがなく、力なく弱い者、誰かの助けや愛に頼らなければならない者たちを意味すると見ることができます。

神の国は、自分自身が強いと見なす者、自らの義や能力、富に頼る者たちの国ではありません（マルコ10：23～25）。むしろ神の国は、自らの貧しさや不足を知り、全面的に神様の恵みと憐れみを求めて進み出る者たちのものです。

またイエス様は、「子供のように神の国を受け入れる人でなければ，決してそこに入ることはできない」と言われました。「受け入れる」（δέχομαι）は、「歓迎する」、「受け入れる」、「迎え入れる」という意味です。それは、子供たちが持つ特性、すなわち「純粋さ」と「受容的な態度」を表していると見ることができます。

これは、あたかも子供が親の世話を全面的に信頼し頼るように、私たちの全ての誇りや資格、力を手放し、ただ神様の恵みだけを求め、その国を贈り物として受け入れる態度を意味します。自らの力では何もできないことを告白し、子供のように純粋な心で神様に全てをゆだねるのです。

残念ながら、本箇所の前後に出てくる人々の姿は、それとは反対でした。イエス様を試そうとして近づいて来たパリサイ人は、神様の御言葉をよく知り守っているとしながらも、その御言葉を自分の私的な目的を果たすために悪用しています（2～12節）。ある人は「永遠の命に至る道」を知ろうと主のもとに来ましたが、「永遠の命と多くの富」との間で思い悩み、結局立ち去ってしまいました（10：17～22）。弟子たちは３年近く主に従いましたが、その心には依然として世の栄華と成功への欲望が満ちていました。11章で、神様の神殿をさらに神殿らしく管理すべき宗教指導者たちは、神殿を道具として自分たちの私利私欲を満たしています。このような流れの中で、イエス様のもとに来た子供たちは、彼らとは異なる存在でした。世には彼らに対する無視、差別、偏見がありましたが、イエス様は彼らの中に神の国に入るにふさわしい姿をご覧になったのです。神の国は、彼らのような謙遜で純粋な者の国です。自らの知恵や能力、義によってではなく、神様の恵みを恵みとして知り、それを受け取る者の国です。

「そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」（16節）

主は「子供たち」をご自身の腕の中に抱き、彼らの上に按手して祝福されました。疎外され、弱く、無視される者たちを抱きしめ、純粋な心で恵みを求め受け入れ、神様の御前に出ようとする者たちをご自身の腕の中に抱き締められたのです。

人々は年を重ねて大人になるにつれて、「経験と知恵」が備わると言います。それが世の中では肯定的な意味で使われることもありますが、「神の国」という観点からは、必ずしもそうではないようです。あまりにも考えすぎ、計算的になり、世俗的な価値に明るくなってしまい、私たちが神様の御前に「子供のような者」として立つことを妨げるのです。私たちが神様の御前に「子供のような者」となることを願います。

関東地方会

第76回定期総会を開催

新地方会長に金迅野牧師を選出

2025年４月29日、東京希望キリスト教会にて、総代78名中62名（委任４名）が参加して、第76回関東地方会定期総会が開催された。

開会礼拝は副会長柳町功長老の司会により地方会長の金容昭牧師が「一粒の麦イエス様のように」（ヨハネによる福音書12：23～28）と題してメッセージを伝えた。

主な決議事項などは以下である。

(1) 長老増員請願許諾:西新井１名、品川３名、東京７名、東京中央１名

(2) 規則変更（各部）、宣教協力部と伝道部が合併し「宣教伝道部」とし、青年部、女性部、壮年部が合併し「信徒部」とした。

(3) 2025年度予算案承認:14,727,392円（内7,020,000円は総会分担金）

(4) 任員改選

・会　長：金迅野牧師（横須賀）
・副会長：鄭有盛牧師（東京東部）
　　李永久長老（横浜）
・書　記：姜章植牧師（品川）
・副書記：田一光牧師（水戸）
・会　計：金恵珍長老（川崎）
・副会計：金恩英長老（東京第一）
・宣教伝道部長：李明忠牧師（横浜）
・教育部長：姜英珍牧師（東京第一）
・社会部長：金伸禹牧師（東京中央）
・信徒部長：具滋佑牧師（東京希望）
・考試部長：金容昭牧師（西新井）
・財政部長：金恵珍長老（川崎）
・監　　査：申大永長老（東京希望）、柳町功長老（横浜）

金迅野会長

中部地方会

第62回定期総会を開催

新地方会長に李珍容牧師を選出

2025年５月５日、長野教会 にて、総代23名中20名（委任３名）が参加して、第62回中部地方会定期総会が開催された。

開会礼拝は副会長李大宗長老の司会により地方会長の崔和植牧師が「もし今日が最後の日なら」（ヨハネによる福音書13：1～5）と題してメッセージを伝えた。

主な決議事項などは以下である。

(1) 長老増員請願許諾:名古屋３名

(2) 2025年度予算案承認：17,185,668円（内3,997,000円は総会分担金）

(3) 任員改選

・会　長：李珍容牧師（豊田めぐみ）
・副会長：許光渉牧師（岡崎）
　　崔宰熏長老（名古屋）
・書　記：蔡銀淑牧師（大垣）
・副書記：金成彦牧師（豊橋）
・会　計：高在道長老（名古屋）
・副会計：金珍明長老（長野）
・伝道部長：金明均牧師（名古屋）
・教育部長：金成彦牧師（豊橋）
・社会部長：李大宗長老（名古屋）
・青年部長：金炯振牧師（千曲ビジョン）
・財政部長：高在道長老（名古屋）
・女性部長：金恩淑執事（豊橋）
・考試部長：李珍容牧師（豊田めぐみ）
・韓・日宣教協力委員会長：蔡銀淑牧師（大垣）
・電磁メディア委員会長：崔和植牧師（長野）
・監　　査：呂和淑勧士（名古屋）、曺述燮勧士（名古屋）

李珍容会長

関西地方会

第76回定期総会を開催

新地方会長に金鍾権牧師を選出

2025年５月６日、平野教会にて、総代69名中58名が参加して、第76回関西地方会定期総会が開催された。

開会礼拝は副会長森克之長老の司会により金武士牧師が「教会の交わりの恵みによって」(ペトロの手紙一4:7～11)と題してメッセージを伝えた。

来賓として、特に大韓イエス長老会（統合）の釜山東老会から申觀雨長老（老会長）を始め３名の任員と済州老会から金太英長老（老会長）を始め４名の任員が出席した。

主な決議事項などは以下である。

(1) 長老増員請願許諾：京都３名、京都南部２名、大阪北部２名、大阪２名、布施１名。

(2) 南港伝道所の金大賢牧師が堺教会に招聘されることになり、南港伝道所の運営が厳しいこともあり、堺教会との合併が承認された。南港伝道所は５月末まで活動し、６月以降信徒は堺教会に出席する予定。

(3) 関西地方会と大韓イエス長老会（統合）済州老会との宣教協力を推進することが承認された。

(4) 青年部の提案により青年育成のために、関西地方会と西部地方会との交流実施と定期交流の取り組みを進めることが承認された。

(5) 2025年度予算承認：6,112,000円（うち総会援助金1,700,000円）

(6) 任員改選

・会　長：金鍾権牧師（平野）
・副会長：宋南鉉牧師（大阪第一）
　　吉井秀夫長老（京都）
・書　記：裵貞愛牧師（枚岡）
・副書記：新井由貴牧師（京都南部）
・会　計：金光成長老（大阪）
・副会計：高慶美長老（大阪）
・伝道部長：朴栄子牧師（豊中第一復興）
・教育部長：金大賢牧師（南港伝道所）
・社会部長：申容燮牧師（KCC）
・青年部長：梁陽日長老（大阪）
・女性部長：金仁姫勧士（京都）
・考試部長：趙永哲牧師（大阪北部）
・視察部長：金鍾権牧師（平野）
・壮年部長：森克之長老（大阪）
・宣教協力部長：宋南鉉牧師（大阪第一）
・納骨堂委員会部長：朴成均牧師（和歌山第一）
・会計監査：森克之長老（大阪）、嚴敞俊長老（京都）

金鍾権会長

西部地方会

第41回定期総会を開催

新地方会長に韓世一牧師を選出

4月29日（火）西部地方会の第41回定期総会が、川西教会堂で開催された。開会礼拝には会長韓承哲牧師により、「主において常に喜びなさい。」(フィリピの信徒への手紙4章1節～7節) と言う題で説教があり、李重載牧師の司式のもとで聖餐式が行われた。

総代員32名中、24名の出席し、各種報告と任員改選や献議案などが承認された。

重要な報告や決定事項は以下の通り。

韓世一会長

(1) 任員改選
- ・会　長：韓世一 牧師（神戸教会）
- ・副会長：中江洋一牧師（広島）
  白承豪長老（神戸教会）
- ・書　記：尹鐘憲牧師（明石）
- ・副書記：孫信一牧師（西宮）
- ・会　計：崔美恵子長老（武庫川）
- ・副会計：尹聖哲長老（神戸教会）
- ・監　事：李重載牧師(川西)、金哲鎬長老（神戸東部教会）
- ・伝道部：韓承哲牧師（神戸東部）
- ・教育部：尹鐘憲牧師（姫路薬水）
- ・社会部：李相徳牧師（福山）
- ・信徒部：李重載牧師（川西）
- ・考試部：崔亨喆牧師（岡山）
- ・視察部：中江洋一牧師（広島）
- ・宣教協力部：韓世一牧師（神戸）

(2) 第40回西部地方会定期総会会議録承認
(3) 臨時堂会長選任承認
(4) 武庫川教会長老１名増員請願承認
(5) 神戸教会長老１名増員請願承認
(6) 開拓伝道費受給教会に対する任員会の会計監督承認
(7) 2024年度予算訂正の承認
(8) 予算案承認：9, 402,282円

大阪教会

李明信牧師委任式 挙行

第9代担任牧師として赴任

2025年４月27日主日の午後、大阪教会において新しく赴任された李明信牧師の委任式が盛大に行われた。

臨時堂会長の金武士牧師の司会により礼拝が始まり、総会長の梁栄友牧師による「落胆しない牧会者」（第二コリント4：16～18）という説教がなされた。

牧師委任式は関西地方会長の朴栄子牧師の司式のもとで進み、紹介、誓約、祈祷、宣布の順に行われた。

趙永哲牧師と全聖三牧師のよる勧勉、祝辞は金鍾権牧師、尾島信之牧師（教団南大阪教会）、裵貞愛牧師がなされた。

この度、関西地方会から大阪教会の牧会を委任された李明信牧師は、1962年韓国で生まれ、監理教神学大学校神学部と大学院を卒業、日本では立教大学院を卒業した。1996年牧師按手を受けてから基督教大韓監理会（KMC）派遣宣教師として来日以来、関東地方会の山形ウリ教会で牧会した。

家族としては金熙淑夫人と１男１女がいる。

西南地方会

第75回定期総会を開催

新地方会長に尹善博牧師を選出

2025年4月29日（火・祝）11時より福岡教会に於いて総代23名中20名が参加して第75会期西南地方会定期総会が開催された。

開会礼拝は地方会長辛治善牧師が「枯れた骨をも生き返らせる主」（エゼキエル37：1－10）と題してメッセージを伝えた。

閉会礼拝は新地方会長尹善博牧師がエフェソ3：18－21の御言葉をもってメッセージを伝えた。16時30分に閉会した。

主な決議事項は以下である。

尹善博会長

１．任員改選
- 会　長：尹善博牧師（博多教会）
- 副会長：趙顕奎牧師（別府教会）、
  高文局長老（別府教会）
- 書　記：林明基牧師（福岡教会）
- 会　計：崔日承長老（博多教会）
- 伝道部長：辛治善牧師（福岡中央教会）
- 教育部長：郭鏞吉牧師（沖縄教会）
- 社会部長：金承熙牧師（下関教会）
- 青年部長：趙顕奎牧師（別府教会）
- 女性部長：曺恩注牧師（宇部教会）
- 宣教協力部長：李恵蘭牧師（折尾教会）
- 視察部長：朴栄喆牧師（対馬めぐみ伝道所）
- 考試部長：林明基牧師（福岡教会）
- 歴史編纂委員会長：金聖孝牧師（熊本教会）
- 財政部長：崔日承長老（博多教会）
- 監査：高文局長老（別府教会）、郭鏞吉牧師（沖縄教会）

２．地方会規則改正案（４章５条９項に６を追加：牧師が委任を受ける前に着任・居住および牧会奉仕することは、地方会の承認をえなければならない）を承認

３．長老増員請願許諾（折尾教会１名、福岡教会２名）を承認

４．「第75回西南地方会予算案(13,171,263円)」を承認

東京希望キリスト教会

2名の長老将立式を挙行

執事按手式、勧士任職式も同時に

方哲熙長老

車炳宇長老

2025年４月25日（主日）の午後、東京希望キリスト教会において、方哲熙、車炳宇長老将立式及び、鄭宰旭、姜京雲、金敬泰、朴智萬執事按手式と呉玉均、姜正蘭、朴宣映、許潤娥勧士任職式が執り行われた。

堂会長の具滋佑牧師の司会のもと開会された礼拝には、関東地方会副会長の柳町功長老の祈祷、東京東部教会の鄭有盛牧師が「私は幸せな主の僕」（イザヤ61:1～11）という題で説教がなされた。

引き続きの長老将立式には関東地方会の金容昭牧師の司式のもと、紹介、誓約、按手祈祷及び宣布が行われ、執事按手式と勧士任職式は堂会長の具滋佑牧師の司式で行われた。

副総会長の張慶泰牧師が勧勉と祝辞をし、横浜教会の李明忠牧師の祝祷で終わった。

この度、東京希望キリスト教会の視務長老として将立された方哲熙長老は1957年に韓国で生まれ、2017年から執事、按手執事として教会に仕え、車炳宇長老は1959年韓国で生まれ、2014年から執事、按手執事として教会に仕えてきた。

西南女性会

第72回定期大会を開催

新会長に任英淑執事（折尾）を選出

関2025年４月26日（土）、小倉教会において西南地方教会女性連合会の第68回定期大会が開催された。

初めに開会礼拝（説教：李恵蘭牧師）がささげられ、朴賢淑会長による挨拶があった。

各教会・各部の報告、決算予算の承認があった後、役員の改選が行われた。

新役員は以下の通り。

・会長：任英淑（折尾）　・副会長：梁晶子（小倉）
・書記：角城かおり（下関）　・会計：趙容賢（福岡）

全ての順序が終わり、閉会礼拝（説教：曺恩注牧師）をささげ大会を終了した。

今福教会

李炳林名誉長老が召天

1978年に故李炳球牧師とともに開拓

2025年4月21日、今福教会の李炳林名誉長老が天に召され、朴愛仙牧師司式のもと、葬儀が行われた。享年94歳であった。

故・李炳林名誉長老は、1930年韓国で生れ、17歳で結婚、数年後来日した。

小冊子『忘れなぐさ「39年の歩み」』には、様々な苦労の中にあっても力強く神様と共に歩まれた故人の姿が綴られている。

今福教会は、故・李炳林名誉長老と故・李炳球名誉牧師が1978年に開拓した教会であって、1986年に長老として将立されてから全生涯を捧げた。姉と弟は長老と牧師として貢献したお二人の功績は計り知れない。葬儀においては深い敬意と感謝の意を表す場となった。

＜大阪北部教会100周年特集＞

初代担任牧師金泰練（福）牧師のご家族を探して

大阪北部教会　**趙 永 哲　牧師**

大阪北部教会初代金泰福（練）牧師

金泰福牧師の子供さんと共に

大阪北部教会は今年教会創立100周年を迎える。2001年本教会に赴任した趙永哲牧師は第６代目の担任牧師である。私は2001年２月に赴任して以来、80周年（2005年）、90周年（2015年）を過ごし、今年100周年を迎えることになる。100周年を迎える中で、本教会に関してこれまで明らかになっていなかった初代担任牧師（1940年７月７日～1943年３月３日）についての内容を共に分かち合いたい。これまで本教会は80周年記念誌まで初代担任牧師の行方を知ることが出来ず、記念誌においても名前（金泰練）以外には何も掲載することが出来なかった。その後、本教会の故・玄泰姫勧士から当時結婚式の司式を金泰練牧師にご依頼なされていたと伺い、結婚式の団体写真から金泰練牧師の姿のみを切り出して90周年の記念誌に掲載することが出来た。ところで、金泰練牧師の写真は探し出すことが出来たものの、金泰練牧師がどのような人であったのか、また本教会を離れた後の行方などについては知ることが出来なかった。

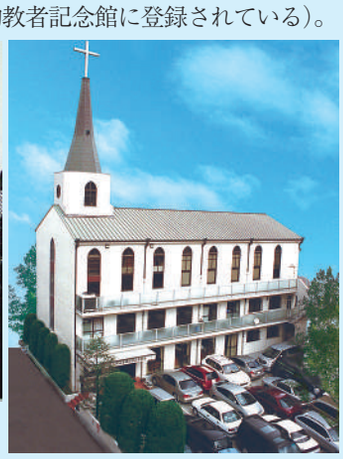
その後、2018年10月末頃、日本基督教団に属していた牧師から連絡を受け、初代牧師のご家族が現在アメリカに居住していることが分かった。そして、初代牧師の次男（金基煥牧師）とメールをやり取りし、その御方が初代牧師に関する本を書いている中、日本において確認したいことがあるとのことで、90周年記念誌に掲載されていた写真といくつかの資料を送った。

当初は金泰練牧師とご家族の方々が言われる金泰福牧師が違う方ではないのかと考えていた。　ところが、私が本教会の昔の教籍簿を探した結果、同じ教籍簿の中で金泰練という名前と金泰福という名前が同じ筆跡で書かれていた。これを金基煥牧師に送り、確認した結果、同一人物であることが判明した。私は本教会の歴史を整理し、初代担任牧師の情報を更に調査するため2019年6月カナダにて開催された在日大韓基督教会の教役者研修会に参加した後、米国サンディエゴに向かい、次男金基煥牧師夫妻とその後はロサンゼルスにて次女盧和得勧士にお会いした。彼らを通して初代担任牧師が帰国後、平壌神学校の教授として奉仕し、朝鮮戦争勃発前、北側の共産党当局によって逮捕され、その後殉教されたことが分かった（現在、韓国殉教者記念館に登録されている）。

そして今年２月ロサンゼルスにて開催された第15回海外韓人教会教育と牧会協議会に参加した後、再び初代担任牧師のご家族にお会いした。特に、今回は本教会の100周年を記念して特別宣教献金をして下さった盧和得勧士には感謝牌を手渡した。また、次男の金基煥牧師には今年９月28日に開催される本教会の100周年記念礼拝にて説教をして下さるようお願いし、承諾を受けた。

これまで私は本教会に赴任し、80周年と90周年には２代目から４代目までの担任牧師のご家族をご招待したことはあったが、初代担任牧師の家族を迎えるのは今回が初めてとなる。

今年、教会創立100周年を迎え、初代担任牧師のご家族に出会い、100周年記念礼拝を迎えることが出来るように導いて下さった神様に感謝し、初代担任牧師のご家族と共に本教会の宣教100年の歴史を振り返り、感謝の100年と同時に新たな100年の宣教の歴史を作っていくためさらに前進する教会となることを期待する。



1951年当時の教会堂（左）と現在の教会堂（右）